

府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2024年新年号 1月10日(水)発行 通巻91号
 発行人 小西 信生 (府中市四谷6-19-20)
 TEL 080-5646-5524
 編集人 葛西 利武
 (府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

多摩川名人をめざそう！ 第4回「歴史・自然遺産めぐり」 吉武考三郎

2023年11月3日金文化の日に、「多摩川名人をめざそう！」の第4回目「歴史・自然遺産めぐり」が開催された。当日は快晴で、かつ気温も昼には25度を超える夏日となり、たいへん気持ちのよい散歩日和となった。

9:30に京王線中河原駅に19名が集合(一般参加者7名、府中市関係者3名、当会関係者9名)。小学校低学年のお子さんから、上は70歳代の方までと、たいへんバラエティに富むメンバーが集まった。

当会スタッフ村崎啓二、金田邦男のお話し

まずは、スタッフの村崎氏から、開業100年が近い「中河原駅」の歴史について説明がある(下写真)。同駅周辺はすでに50年も前に高架に切り替えられて踏切がない道路との交差となっていたとの説明を聞き、これにはみなびっくり。その後、旧多摩川堤防の跡とも言われている下河原通りを歩きつつ、今は廃業となった矢部養魚場を横に見ながら、旧堤防から約1.8mの高低差のある古鎌倉街道に下っていく。



金田邦男氏は中央の樹木を背にしている

下河原緑道を歩く

公園を出て、多摩川からの用水路跡を埋め立てた「第3都市遊歩道」を伝って、住吉小学校に向かう。校内では、野球チームが練習をしている脇で、多摩川の旧堤防があったとおぼしき、隣のマンションとの境界地点に行く。ただ、ここでは、ほぼすべての段差は削り取られているのか、明確には旧堤防跡の痕跡は見つからない。

その後、多摩川の砂利を中央線国分寺駅に運ぶための国鉄「下河原線」に沿って整備された「下河原緑道」に行く。線路の跡は全くなかったが、ここは自転車と歩行者が区分された散歩にはうってつけの緑道だ。途中の下河原八幡神社で、本日のリーダー小西信生氏から下河原線の歴史や路線図についての説明があった。



村崎啓二氏は中央緑色の幟から右に3人目

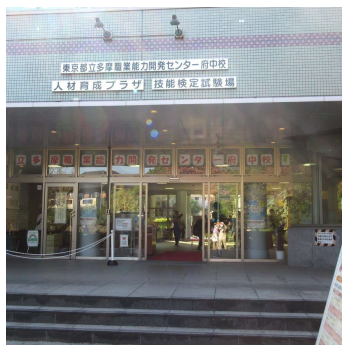
その後、中河原公園に出て、ここで、旧関戸橋(1937年架設)のバルコニーを移設したモニュメントを眺めつつ、多摩川をその昔は船で渡っていたという「関戸の渡し」の説明を聞く。当日配布された資料の中に、明治時代頃の「関戸の渡し」の写真があり、渡し船と菅笠をかぶった船頭の姿が写っているのを見て、一昔前の日本ののどかさど不便さを噛みしめる。

公園では、スタッフの金田氏から、モミジなどが赤くなる紅葉のメカニズム講義が紙芝居式に披露され、落ち葉を使った楽しい作品作りについても、見本を示しながら説明があった(右上写真)。これにはお子さん2人が大いに反応し、事前準備してきたクリアファイルの中に、思い思いに形がよく色もきれいな落ち葉を拾い集めていた。

後日、そのお子さん2人の作品写真が送られてきた。そこには、落ち葉を楽器に見立てた音楽会「おどれオーケストラ(㊤①)」、落ち葉に人の顔などを描いた「kaede(㊤②)」があり、その表現力にびっくりさせられた。



参加者のお子さま作品①
「おどれオーケストラ」



「きずな」の隣りにある、「東京都立多摩職業能力開発センター府中校」の辺りが昔の「下河原駅」



参加者のお子さま作品②
「kaede」

ここから約500m下河原緑道を歩き、府中市立心身障害者福祉センター「きずな」を過ぎる。実は、痕跡は一切残っていないが、「きずな」は下河原線の「操車場」跡地に建っているらしく、その敷地は細長い。

終点は、郷土の森博物館入口前である。ここではスタッフの倉町三樹氏により、園内に旧堤防が残っているとの説明もあり、参加者は多摩川変遷の一端にも触れることができた。全行程約2.5kmを約3時間かけてのんびりと歩いた「歴史・自然遺産めぐり」であった。

2023.11/25(土)ー11/26(日)

10:00-16:00

第9回「府中市民協働まつり」に参加して

新企画「花とみどりでつながろうin府中」
にシュロバッタづくりで参加

金田 邦男

11月25・26日に府中市市民活動センタープラッツにおいて、「第9回府中市民協働まつり」が開催され、当会は25日に参加した。

「協働まつり」とは府中市で活躍する市民団体、学校、企業などが約100団体集まり、ワークショップや活動展示、パフォーマンス、相談や活動紹介、食品や手づくり品の販売などを行う催しである。

当会では、例年ブース展示による活動紹介とシュロバッタづくりを行っていたが、今年は新企画の「花とみどりでつながろうin府中(写真①)」にもシュロバッタづくりで参加した。これは、花やみどりを通して、人や団体がつながり、まちづくりを広げることを目的に、① i-ze(いーぜ) ② act634府中 ③ ひな草の会 ④ かんきょう塾ネット ⑤ 公園緑地課 ⑥ 当会の6団体が一つのスペースを運営する試みである。

当日は、10時に開始し、初めは他団体の押し花カレンダーや葉っぱプリントに比べ地味なせいかなかなか関心もたれず心配したが、11時頃から徐々に子供達や女性を中心に集まりだし、終了の16時までとぎれることなく忙しい時間になった。

大勢の方にバッタのお土産を！

会員からは、バッタづくりの名人の鈴木(潔)さんと倉町さん、腕を上げた増田さん、大森さん、山上さん、金田の6人が講師を務め、大勢の方にバッタのお土産を持ち帰っていただくことができた。特に作り上げたときの子供達の満足顔が印象に残っている(写真②③)。

バッタづくりを通して、来場した方々と自然や環境、会の活動などを話すことができ、他団体とも会場づくりで協働できたことは素晴らしい体験になった。取り組みの趣旨である府中のまちづくりにもつながり、今後参加する団体が増えることを期待する。

あなたにとって「より良い環境」とは何ですか？ できることから始めよう！

竹内 章

「市民協働まつり」は今回で第9回目を迎えました。当会は第1回目から継続して参加しており、今まで多くの市民や団体と交流してきました。

今回は、昨年までとは異なり「コロナ禍」を気にせず、参加できました。6階の出展ブースには、当会の主な活動紹介パネルを展示して、市民や団体の皆さまに見ていただきました(写真④)。

「有機フッ素化合物(PFAS)」問題のパネル展示
-水じゅんかんプロジェクト-

当会のブースを訪れた方々は午前、午後合わせて75名(内17名子ども)です。今回は特に、水じゅんかんプロジェクトからの「有機フッ素化合物(PFAS/ピーファス)」に関するパネルを展示し、来られた方の殆どが「何も知らない」ということで、如何に一般市民に認知されていないかがよくわかりました。

また、西府崖線の保全活動パネルを見て非営利団体関係者が「バイオネスト/周囲を枯れ枝で組み、巢の形をした落ち葉の堆肥場」の写真を見て、「カブトムシを育てているが、今年は幼虫がとても少なかった」と。

その団体は、「イベントで寄附金を募るために成虫を販売している」とのことでした。当会では小学校に出向き、「バイオネスト」の中のカブトムシ等を通して、SDGs環境学習に役立てていることを伝えました。



- ①「花とみどりでつながろうin府中」入口の幟など
②シュロバッタづくりの最中。中央の幟を背にした筆者、その左は鈴木潔、右端は倉町
③シュロバッタ完成品 ④当会の出展ブース、中央は筆者

もり公園
にじいろ広場

「府中の森公園」ユニバーサルデザイン遊具

伊藤久雄

皆さんは、「府中の森公園」の北西、府中市立美術館前に誰でも遊べるユニバーサルデザイン(※1)遊具のある広場があるのをご存じでしょうか。開設して、昨年11月でちょうど2年になりました。

府中の森公園「もり公園にじいろ広場(㊦写真)」と名付けられています。この愛称も、近隣施設の子どもたちに候補を考えてもらい、3,500票を超える投票で決まったとのこと。愛称も子どもたちの参加で決まった、まさにユニバーサル公園なのです。

公園を充実させるのは子どもたち

わが国で、ユニバーサルデザイン遊具のある公園(広場)の取り組みが始まったのはつい最近です。みんなが使いやすいもの、楽しめるもの、質の高いもの、より安全なものを考えていくことが重要です。

「みんなの公園プロジェクト」代表柳田宏治さんは、重要なポイントとして「5つの原則」を提唱しています。

5原則とは、アクセシビリティ(※3)、選択肢、インクルージョン(※4)、安心・安全、楽しさです。海外では、車いすユーザーも一緒に乗り込めるような革新的な遊具も次々と開発されていると言われています。子どもたちと一緒に遊んで、子どもたちの意見をよく聞き、今後の取り組みに反映していくことが求められています。

皆さんもぜひ、府中の森公園「もり公園にじいろ広場」に出かけてみてください。もちろん、そのときは子どもや孫たちと一緒にです！



㊦ もりこうえん
コースター



㊩ スーパーハイパー
ブランコ

だれでも遊べる、ユニバーサルデザイン遊具のある公園

「だれでもが遊べる遊具広場」とは、障がいの有無や国籍などに関わらず、あらゆる子どもたちが一緒に遊べる遊具広場です。互いの違いを理解しあい、支え合いながら遊ぶインクルーシブ(※2)な遊び場です。

また、「だれでもが遊べる児童遊具広場」整備ガイドライン(東京都建設局)では、「子どもの遊びと遊び場の重要性」について、「子どもは、遊びを通して、身体的、精神的、情緒的、社会的な、様々な能力を成長させ、向上させています」と述べています。

遊具については、『遊具は、冒険や挑戦、社会的な遊びの機会を提供し、子どもの遊びを促進させる。子どもが冒険や挑戦のできる遊具は、子どもにとって魅力的であるばかりかその成長に役立つものである』と指摘しています。

このように、公園は安心して戸外で遊ぶことができ、さらに、遊びを楽しくさせる遊具等も備えている場所です。また、自分だけではなくみんなと一緒に遊ぶなど、幼児から児童にいたるあらゆる子どもたちにとって格好の遊び場となる重要な空間です。

「もり公園にじいろ広場」には、遊具12点

都内にある都立公園は、「府中の森公園」と世田谷区「砧公園」の2箇所にあります。この2か所の他にも豊島区に4か所のユニバーサル公園があります。では、府中の森公園「もり公園にじいろ広場」にはどのようなユニバーサル遊具があるのでしょうか。上の写真は広場の全体像で、遊具12点の位置も示しています(番号は編集人加筆)。右には、そのうち㊦、㊩の2点を紹介します。

<言葉>

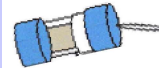
※1 ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの個人の違いにかかわらず、出来るだけ多くの人々が利用できることを目指した建築・製品・情報などの設計のことであり、またそれを実現するためのプロセス。

※2、4 インクルーシブとインクルージョンは、どちらも「仲間はずれにしない、みんないっしょに」という意味。しかし、使われる場面が異なりインクルーシブは教育現場で健常児と障がい児とを区別せず同じ教育を受けさせることを指す。インクルージョンはおもにビジネス現場などで、多様な人材を受け入れて活かすことを指す。

※3 アクセシビリティとは、年齢や障害などのハンディキャップに関係なく、誰でも問題なく利用できるかという意味で使われる。

年4回、市内20か所で調査

大気汚染調査



小西 信生

当会の調査の歴史

当会の大気調査は2003年1月から始まっており、現在と同じ3カ月に1回、当時は市内10カ所の国道や都道など交通量の多い交差点で行なわれていました。

その後、調査場所は一時30カ所までになりましたが、調査結果の検証などで、重複すると思われる場所ははずし、大気汚染による影響のほとんどないと考えられる交通量の少ない公園や住宅地での調査場所を残すなどして、現在の20か所に至っています。

調査のための「ザルツマン試薬」と「ろ紙」、現在は府中市から実費相当分を毎年給付され、調査用の機器は市から貸与されたものを使用し、大気調査の数値測定場所は市内の公的スペースを使っていますが、実際の調査は当会会員がボランティアで行なっています。

日本の大気汚染対策の歴史

日本の大気汚染対策の歴史は、東京都の1949年の工場公害防止条例がほぼ最初であり、国も1968年に大気汚染防止法を制定するなどして、国民の健康のために色々な施策をこじてきました。

国が定め、調査している主な大気汚染対象(特定汚染物質)は以下のとおりです。二酸化窒素(NO2)、浮遊粒子物質(SPM)、光化学オキシダント、ダイオキシン、アスベストなど

国が定める二酸化窒素(NO2)の発生原因と環境基準
人間の活動によって発生し、各家庭や工場などの固定発生源のほか、自動車の排気ガスなどの移動発生源によるものもあります。その二酸化窒素については、1978年から1日平均値が0.04ppm~0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下を環境基準として定めています。

(別表) 府中かんきょう市民の会 NO2測定(令和5年12月期と前4年間の数値) ※5面右下には「NO2汚れの目安」を示す

測定カ所	測定カ所		5年12月(0.0063)		4年12月(0.0063)		3年12月(0.0063)		2年12月(0.0063)		1年12月(0.0063)	
	街道	交差点	μA	NO ₂	μA	NO ₂	μA	NO ₂	μA	NO ₂	μA	NO ₂
1	府中街道	府中刑務所角	倉町	7.5 0.047	4.0 0.025	4.0 0.025	5.0 0.032					0.032
4	新小金井街道	明大グランド西	吉武	8.0 0.050	4.0 0.025	4.5 0.028	5.5 0.035					0.041
5	新小金井街道・国道20号	若松町2丁目	伊藤	2.5 0.016	○ 2.0 0.013	3.5 0.022	7.5 0.047					0.028
7	小金井街道・国道20号	小金井街道入口	吉武	5.0 0.032	4.0 0.025	3.0 0.019	8.0 0.050					0.022
9	東八・国分寺街道	栄町交番	高橋	5.0 0.032	4.0 0.025	5.0 0.032	7.0 0.044					0.022
10	朝日町通り・国道20号	榑原記念病院南	伊藤	2.5 0.016	○ 3.0 0.019	3.0 0.019	9.0 0.057					0.050
11	しみず下通り・白糸台通り	車返団地南	福島	6.5 0.041	3.0 0.019	3.5 0.022	8.5 0.054					0.041
12	府中街道・多摩川通り	是政橋	福島	7.0 0.044	2.5 0.016	4.5 0.028	8.0 0.050					0.028
13	府中街道・国道20号	寿町3丁目	吉武	6.0 0.038	3.5 0.022	3.5 0.022	8.0 0.050					紛失
14	新府中街道	中河原駅前	金田	4.5 0.028	3.5 0.022	5.0 0.032	7.5 0.047					0.041
15	日野バイパス・都道256号(旧20号)	国立インター入口	小西	8.0 0.050	3.5 0.022	2.5 0.016	9.0 0.057					0.041
16	新府中街道・国道20号	本宿交番	竹内	8.5 0.054	5.0 0.032	6.5 0.041	8.5 0.054					0.044
17	東八・府中所沢線	西原1丁目	倉町	8.5 0.054	5.0 0.032	6.0 0.038	8.5 0.054					0.038
21	浅間山北側住宅地	浅間山北側	高橋	4.0 0.025	3.0 0.019	1.5 0.009	5.0 0.032					0.022
22	新小金井街道・清水下通り	清水カ丘2丁目	福島	7.5 0.047	2.0 0.013	3.5 0.022	5.0 0.032					0.028
24	新府中街道	本宿トンネル内	竹内	9.0 0.057	7.5 0.047	11.0 0.069	10.0 0.063					0.082
25	新府中街道・多摩川通り	関戸橋北詰	金田	10.0 0.063	4.5 0.028	3.5 0.022	8.0 0.050					0.041
26	野猿街道・都道20号	四谷保育所角	小西	7.5 0.047	5.0 0.032	3.0 0.019	7.0 0.044					0.035
28	府中街道・旧甲州街道	市役所	吉武	6.0 0.038	3.0 0.019	4.0 0.025	6.0 0.038					0.035
29	新府中街道	根岸病院角	倉町	6.0 0.038	2.5 0.016	3.5 0.022	5.5 0.035					0.025
	平均値					0.023		0.027		0.046		0.037
	調査時間中の天候			晴れ		一時雨		当日は概ね晴れ、前日まで雨		晴れ		当日は概ね晴れ、前々日まで雨

1993年制定の環境基本法でも、典型七公害の一つとして定められました。(1)大気汚染(2)水質汚濁(3)土壤汚染(4)騒音(5)振動(6)地盤沈下(7)悪臭を指します。

東京都の公害防止条例を平成12年に改定した「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」(環境確保条例)でも、より具体的に規定がなされています。

府中市内での調査場所

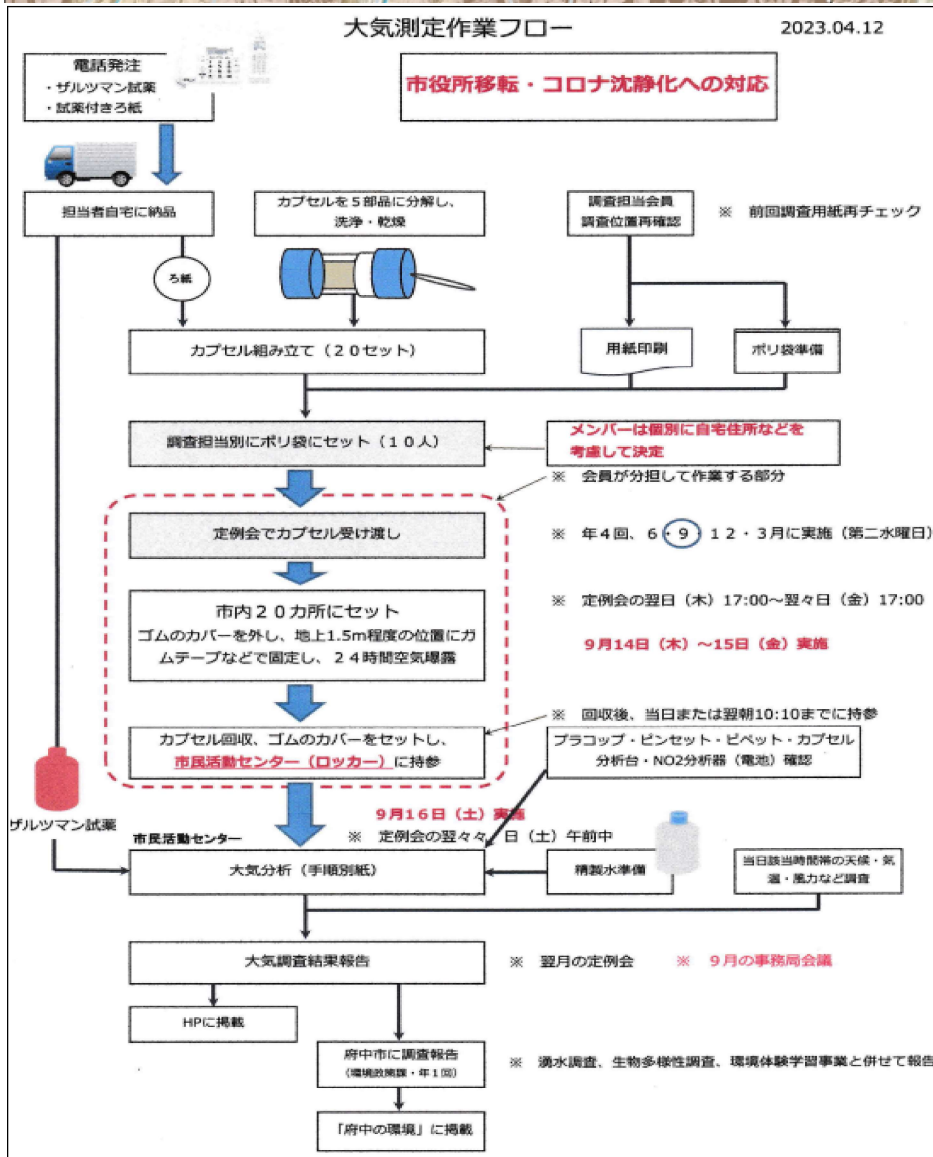
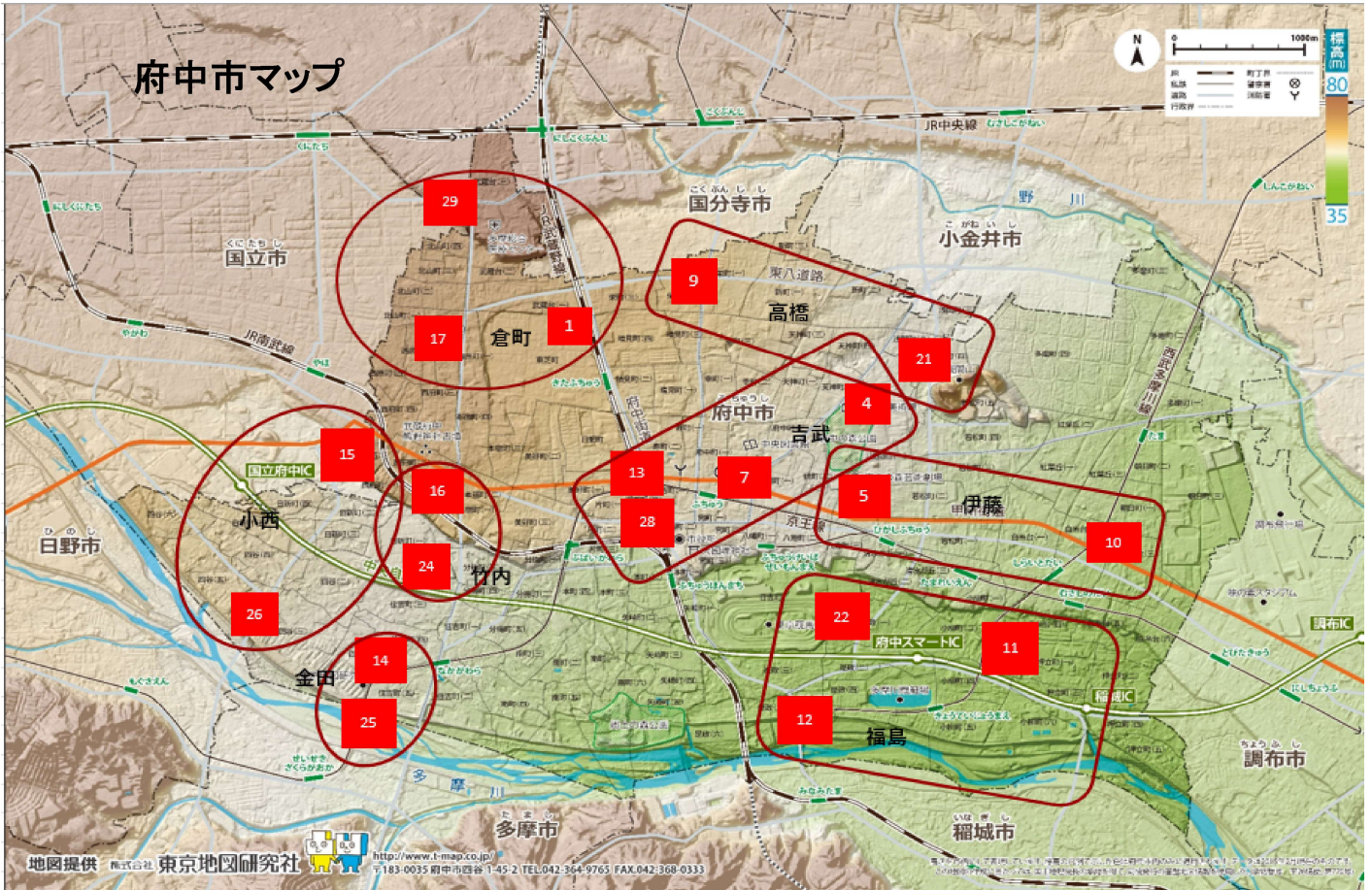
府中市内での大気調査場所は、別図(5面)府中市マップのとおりです。当会が調査を始めたときから変わっていない場所もありますが、新たに道路新設部分を加えたり、風や雨による調査時点の天候による影響は1回ごとの数値の変化が大きいことから、交通量が少なく大気汚染がほとんどない場所を基準として設定しています。

調査結果

直近5年間の12月の数値は下記別表の通りです。また、5面右下には「NO2汚れの目安」も示しました。新型コロナウイルスの影響も見られると言えそうですし、各調査期間の天候による影響、また個別の調査地点での数値の動きも色々読むこともできそうです。

コロナ禍中は2人で対応、現在は通常に戻る

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の影響で、集会の自粛、府中市内の会議場所の閉鎖により2020年3月調査分は中止し、2020年6月分から2023年6月ぶんまでの3年強、当会の大気調査は多くの会員による調査は行なわず、20カ所の調査を2人で行なわざるをえませんでした。2023年5月からの5類移行により、9月から2019年12月実施とほぼ同じ調査に戻りました。



調査用のカプセルを電信柱に取り付け



大気汚染調査の数値測定器具

[NO2汚れの目安] 単位:ppm

- 0.020以下 あまり汚れていない
- 0.021~0.040 少し汚れている
- 0.041~0.060 汚れている
- 0.061以上 大変汚れている

※4面のNO2測定表を参照

第21回
バス見学会

葛西臨海公園・海浜公園での野鳥観察 etc.

金田 邦男

「府中かんきょう市民の会」の恒例行事である「バス見学会」が、コロナ禍による3年の中断を経て2023年10月23日に実施された。内容は、以前に下見まで行って中止になっていた「葛西臨海公園・海浜公園」での野鳥観察会である。

葛西臨海公園は、都建設局が所管する都立公園、隣接する葛西海浜公園は都港湾局が所管する海上公園と管轄が異なる公園とのことである。

「日本野鳥の会 東京」東良一さんご夫妻、落合はるなさんの3人と合流

案内をお願いしてあった「日本野鳥の会 東京」の東さんご夫妻と落合さんに合流し、今日の予定とこの付近の自然についてのお話を伺った。

まずは西側にある芦が池に向かう。トビが空を旋回し、メジロやムクドリなど府中でもおなじみの鳥も次々と姿を見せる。この付近は東京オリンピックのカヌー会場になったとのことである。芦が池にはカルガモが浮かんでいた。

海上の鳥を観察しながら汐風の広場方面に向かう。なぎさ橋を渡り、西なぎさへ、いよいよユリカメやウミネコの登場である。ここ西なぎさと野鳥保護のために立ち入りが制限されている東なぎさから沖合2kmの海を含めた412haがラムサール条約登録地である。広がる海を眺めながら休憩し、集合写真を撮り、駐車場方面に戻る。

築地場外市場に向かう

広場で東さんたちのお話を聞きながらそれぞれ昼食をとり、バスに乗車し、築地場外市場に向かう。場外市場では皆さん思い思いに買い物をし、府中に戻った。

「日本野鳥の会東京」の2つの活動

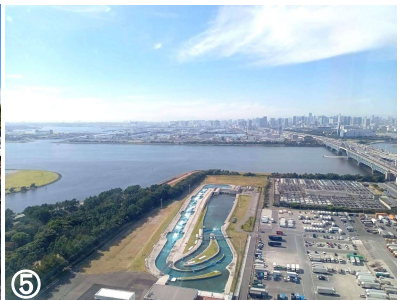
今回特記すべきことは、案内をしてくれた「日本野鳥の会 東京」の皆さんの2つの活動である。

一つは、東京オリンピックの会場として臨海公園の広い範囲が計画されたことに対して、変更を求め計画を大幅に縮小させたことである。もう一つは、多くの野鳥の飛来地である海浜公園の干潟のラムサール条約への登録を実現させたことである。会の名称に「かんきょう」という言葉が入っている我々の活動にも良い刺激になったと思う。

今回は、10月の実施だったが、この湿地には冬になると数万羽のスズガモやカンムリカイツブリ、その他の希少種も飛来するとのことであり、その時期にも訪れてみたいと思った。

後日、「日本野鳥の会 東京」の東さんから、この日に観察された野鳥は、東なぎさも含め、26種類だったとの報告があった。

ありがとうございました。



①全員集合 ②「日本野鳥の会 東京」東さんのお話し(中央右の青シャツ) ③海を眺める参加者 ④バードウォッチング中 ⑤観覧車からのカヌー会場、地上117mからの眺望

参加者の感想

10月23日(月)は天気もよく少し暑い日でした。葛西臨海公園は家族で行ったことがありますが、海浜公園は初めて行きました。野鳥の会の方たちと一緒に話しながら観察できて楽しかったです。 高橋君恵

いつも、ユニセフに寄付しています。子供の環境を考えることは大人の責任ですね、サステナブル持続可能を次世代に渡すことが根本目的、SDGs大人の行動で環境が保全されることを学びました。 和泉秀世

葛西臨海公園を初めて訪れた。西府崖線では極めて近距離で野鳥観察することができたが、ここでは壮大な視野の広がりには驚いた。久しぶりに海を眺めることもでき、心が洗われた。余談だが、私は北海道室蘭市出身だ。「葛西」の名前のルーツは久しく青森県弘前市周辺だと思っていたが、数年前「東京都江戸川区葛西」、「千葉県北部」周辺だとわかった。その影響だろうか、かの地が特別なものに思えた。 葛西利武